

こども新聞 週刊かほピョンプレス

毎週日曜発行
2021 5/2



河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

みんな 子ども だった!?

14

きょうのテーマ

「耳がでっかくなっちゃった!」のネタでおなじみ、気仙沼市出身のハンドメイドタレントのマジック・タレントの審司さん。マジックと出会い、人生が大きく変わったそうだよ。

◇ 3人兄弟の真ん中で、よくけんかして父に怒られていました。両親が営む電器店の前などで3人で正座させられました。学校ではお調子者で恥ずかしがり屋、そのくせ卒業文集では「一番のひょうきん者」になっていた。目立っていたみたい。



マジック・審司さん(47歳・手品師、タレント)

まぎー・しんじ 気仙沼市出身。気仙沼高卒。1994年にマジック・タレントの審司さんに弟子入り。ライブやテレビ、ラジオなどで活躍(かつやく)。「みやぎ絆(きずな)大使」「みんなと気仙沼大使」も務(つと)める。

師匠は人を大切にしている。とぼけた芸に人間性が出ていて、手品以上に本人が印象に残る。僕もそうなりたいです。

小学校では先生にいじられたくて、教室の一番前の席に座りました。中学では転校してすぐ応援団長になりました。

年生の時の生徒会長選挙は立候補者が1人で、盛り上げようと「男女共学化」を公約に立候補した。うち「さっぱり共学化しない」とリコール(解任)されそうに。母校は今も共学で、俺のおかげと勝

手に思っています。卒業後は電器店を継ぐはずでしたが、「一度外に出てみる」と父に背中を押され、アメリカ・サンフランシスコにある気仙沼のすし店の姉妹店ですし職人になりました。英語が話せず、コミュニケーションのため簡単な手品をしていました。来店したプロのマジシャンに披露すると、逆にすごい技を見せられ感動。

大人は子どもに将来の夢を聞けけれど、僕が子どもの頃はマジシャンなんて知らなかった。知っている仕事が少ない時期に「将来こうなる」と決めなくてもいい。成長して世界が広がるうちに多くの仕事に出合える。人を喜ばせることを考え技術や条件もついてくる中で、夢の仕事は見つかる気がします。

マジックに感動 人生激変

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇4日(火) みどりの日
自然に親しみ感謝する日だよ。もとは3日「憲法記念日」と5日「こどもの日」に挟まれた「国民の祝日」だったけど、4月29日だったみどりの日が「昭和の日」になったため、この日に玉突きになったんだ。

かほの紙面

- 2面 サイエンス
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 「かほく防災記者」募集中